

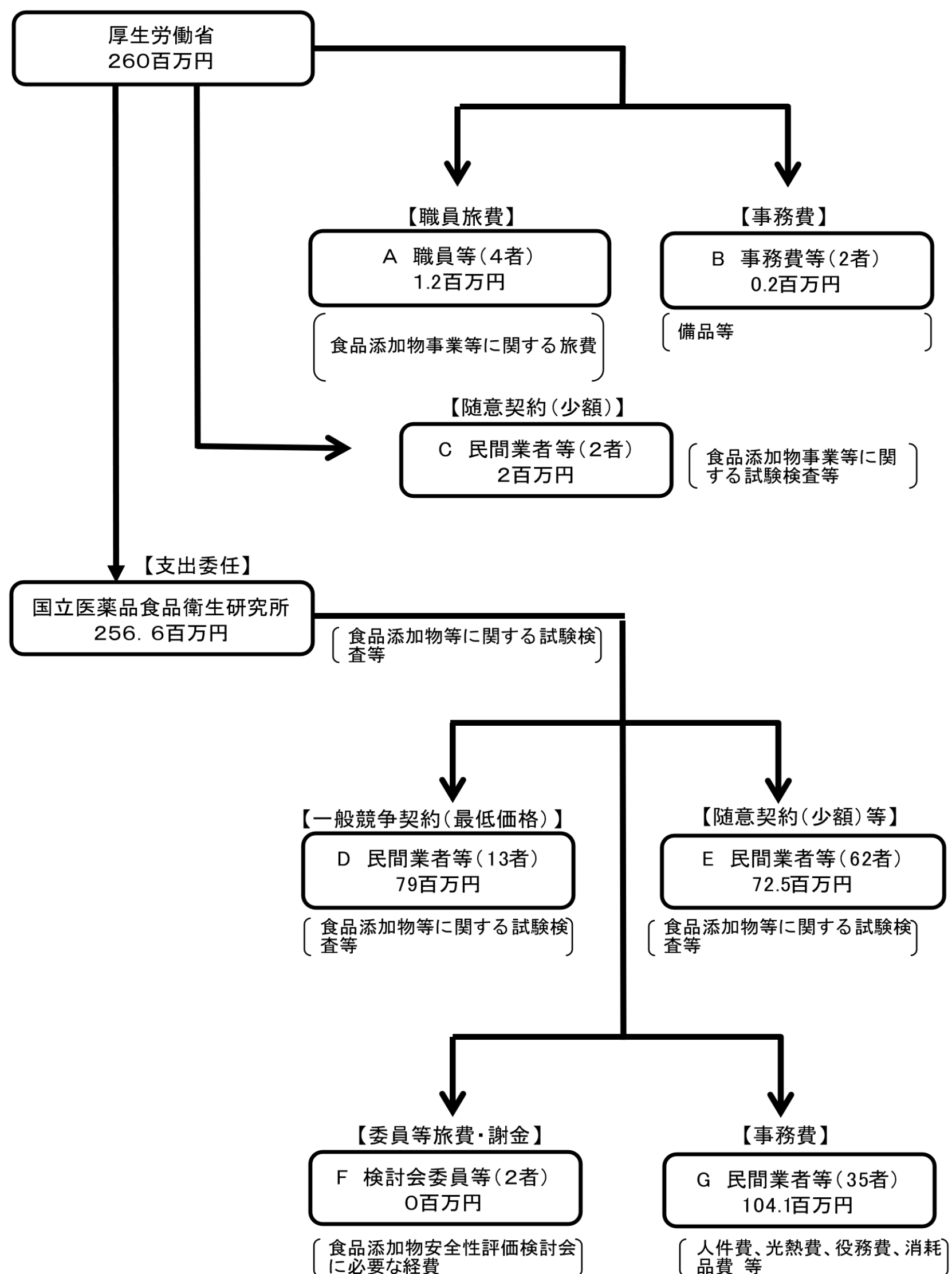
	令和5年度行政事業レビューシート					(消費者庁)	
事業名	食品添加物等の安全性確認の計画的推進事業			担当部局庁	健康・生活衛生局(厚生労働省)		作成責任者
事業開始年度	平成20年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	食品基準審査課(厚生労働省) 消費者安全課(消費者庁)		課長 近藤 恵美子
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	食品衛生法第12条、13条(添加物)			関係する 計画、通知等	-		
政策	食品等の安全性を確保すること(施策大目標Ⅱ-1)			主要経費	その他の事項経費		
施策	食品等の飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止すること(施策目標Ⅱ-1-1)						
政策体系・評価書URL	https://www.mhlw.go.jp/wp/seisaku/hyouka/dl/r03_jizenbunseki/II-1-1.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	最新の科学的知見により、食品添加物の規格基準を整備し、食品の安全性を確保する。						
現状・課題 (5行程度以内)	食品添加物は毎年、新規指定及び規格改正を事業者から要請されており、それに関する成分規格案の精査等の実施が必要である。 また、使用基準等を改正した妥当性についても検証の必要があることや、過去に指定された既存添加物等の安全性についても現在の知見に照らし、再度検証する必要がある。						
事業概要 (5行程度以内)	令和6年度、厚生労働省から消費者庁へ食品衛生基準行政を移管することに伴い、予算計上府省庁を変更した。食品添加物について、成分規格分析、実際の食品からの摂取量の調査、毒性試験等を実施する。						
事業概要URL	-						
実施方法	直接実施、委託・請負						
補助率等	-						
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の 状況	当初予算(A)	510	437	303	275	453
		補正予算(B)	-	▲ 1	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	510	436	303	275	453	
	執行額(G)		463	421	260		
	執行率(%) =(G)/(F)		91%	97%	86%		
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		91%	97%	86%		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)		食品等安全確保対策費		食品添加物の使用基準における食品分類を明確化することに加え、食品分類ごとの食品摂取量推計を行い、食品の安全性を確保するため。 要求額のうち「重要政策推進枠」185 令和6年4月より厚生労働省から消費者庁へ食品衛生基準行政を移管することに伴い、(項)を変更して要求。 なお、令和5年度以前の予算の執行等は、移管元である厚生労働省において実施。		
		(目)	食品等試験検査費	299			
		(目)	職員旅費	1.3			
		(目)	庁費	1.1			
		(目)	委員等旅費	0.4			
		(目)	諸謝金	0.2			
	(項)		消費者政策費				
		(目)	食品等試験検査費	442			
		(目)	職員旅費	4.2			
		(目)	庁費	2			
			その他	4.8			
	計(A)		275	453			

活動内容① (アクティビティ)		新規指定や規格改正が要請された添加物について、要請者が提案する成分規格案の精査や関連する試験を実施し、成分規格案を作成する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		設定予定の成分規格の妥当性を確保する	新規添加物の成分規格分析・検査の実施数	活動実績	件	14	5	4	－	－
				当初見込み	件	5	5	5	5	5
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	国内で使用可能な添加物の指定にあたり、妥当性の確認された成分規格を設定することで、国内に流通する食品において使用される食品添加物の品質を確保し、我が国における食品の安全、安心を確保することができる。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		新規格案の精査を迅速に実施する	－	成果実績	－	－	－	－	－	
				目標値	－	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		令和2年度に14品目、令和3年度に5品目、令和4年度に4品目について実施した。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		食品添加物の指定等は、指定等要請者(事業者)からの指定等要請に基づき指定等を行う制度となっていることから、定量的な成果目標として設定することは不可能である。								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		アクティビティである成分規格に係る試験の実施や成分規格の作成が、最終目標である新規格案の迅速な精査に直接結びつくため。								
活動内容② (アクティビティ)		食品添加物の使用基準の妥当性を検証するため、食品群毎に含まれている食品添加物を定量し、その結果に食品の喫食量を乗じて摂取量を求めるマーケットバスケット方式による一日摂取量調査を実施する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		一日摂取量調査を通じて使用基準の妥当性を検証する	一日摂取量調査を行った食品添加物数	活動実績	件	10	17	10	－	－
				当初見込み	件	10	15	10	11	11
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	一日摂取量調査により実際の食生活に応じた食品添加物の摂取量の実態を確認することで、推計により設定した基準の妥当性が確認でき、国民の食生活の安全、安心が確保できる。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		予定した品目について着実に調査を実施し、実態を把握する	－	成果実績	－	－	－	－	－	
				目標値	－	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		令和2年度に10件の予定に対して保存料6件、着色料4件、令和3年度に15件の予定に対して酸化防止剤5件、防かび剤8件、品質保持剤1件、結着剤1件、発色剤2件、令和4年度に10件の予定に対して保存料3件、着色料2件、甘味料3件、製造用剤1件、結着剤1件の調査を実施した。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		現行基準の妥当性を検証するための活動であり、対象とする品目数が多いことが望ましいというものではなく、定量的な評価になじまない。								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		アクティビティのマーケットバスケット方式による調査を予定したとおり実施することで、最終目標である着実な妥当性確認の実施に直接結びつくため。								

活動内容③ (アクティビティ)		安全性評価を必要とする既存添加物等について反復投与毒性試験を実施する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		既存添加物等の一般毒性を明らかに する	既存添加物等の反復投与毒 性試験の実施数	活動実績	件	5	5	5	－	－
				当初見込み	件	2	5	5	5	5
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	指定添加物及び既存添加物の一般毒性試験を実施し、安全性評価に資する基礎データを作成することで、毒性の懸念がある添加物の使用を防ぎ、食品添加物 が使用された食品の安全を確保することができる。								
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		予定した試験を着実に実施し、安全性 評価に資する基礎データを作成する	－	成果実績	－	－	－	－	－	
				目標値	－	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		令和2年度は2件の予定に対して5件、令和3年度は5件の予定に対して5件、令和4年度は5件の予定に対して5件実施した。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		現に使用されうる添加物について安全性の確認に資する情報を得るための活動であり、実施数が多いことが望ましいというのではなく、定量的な評価になじまな い								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
		アクティビティである既存添加物等の反復投与毒性試験の実施は、最終目標である既存添加物等の一般毒性を解明することに直接結びつくため。								
活動内容④ (アクティビティ)		安全性評価を必要とする既存添加物等について変異毒性に関する試験を実施することにより、安全性評価に資する基礎データを作成する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		既存添加物等の変異毒性を明らかに する	既存添加物等の変異毒性試 験の実施数	活動実績	件	15	8	3	－	－
				当初見込み	件	13	11	2	2	2
↓	成果目標④-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	安全性の評価が必要な既存添加物等について、変異毒性試験を実施し、その安全性評価に資する基礎データを作成することで、変異毒性の懸念がある添加物の 使用を防ぎ、食品の安全を確保することができる。								
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		予定した品目について着実に調査を実 施し、安全性評価の基礎データを作成 する	－	成果実績	－	－	－	－	－	
				目標値	－	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		令和2年度は15件の予定に対して13件、令和3年度は8件の予定に対して11件、令和4年度は2件の予定に対して0件実施した。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由								
		現に使用されうる添加物について安全性の確認に資する情報を得るための活動であり、実施数が多いことが望ましいというのではなく、定量的な評価になじまな い。								
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由								
		アクティビティである予定した品目について変異毒性試験が、最終目標である安全性の評価が必要な既存添加物等の安全性評価の基礎データとなるため。								

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途 （「資金の流れ」において ブロックごとに最大の金 額が支出されている者に ついて記載する。費目と 使途の双方で実情が分 かるように記載）	A.			B.				
	費 目	使 途	金 額 （百万円）	費 目	使 途	金 額 （百万円）		
	-	-	-	備品等費	掃除機 シャープ EC-SR8 1台	0.1		
	計		0	計		0.1		
	C.			D.				
	費 目	使 途	金 額 （百万円）	費 目	使 途	金 額 （百万円）		
	雑役務費	第10版食品添加物公定書案(案)の誤植等確認業務一式	1	備品等費	イオンクロマトグラフシステム 一式 ほか2件	18.6		
	計		1	計		18.6		
	E.			F.				
	費 目	使 途	金 額 （百万円）	費 目	使 途	金 額 （百万円）		
	雑役務費	ルーチン倒立顕微鏡 Microscope Primovert～ 1点 ほか65件	12.8	-	-	-		
	計		12.8	計		0		
	G.			H.				
	費 目	使 途	金 額 （百万円）	費 目	使 途	金 額 （百万円）		
	人件費	給与・賞与	29.9					
	計		29.9	計		0		
費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						チェック		

支出先上位10者リスト

A.								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A	-	旅費1件	0.4	その他	-	-	-
2	個人B	-	旅費1件	0.4	その他	-	-	-
3	個人C	-	旅費1件	0.4	その他	-	-	-
4	個人D	-	旅費1件	0	その他	-	-	-
B								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	有限会社タケマエ	3010002049767	掃除機 シャープ EC-SR8 1台	0.1	随意契約(少額)	-	100%	-
2	富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社	1011101015050	カラー複合機賃貸借及び保守	0.1	その他	-	100%	-
C								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社海風社	7010001122463	第10版食品添加物公定書案(案)の誤植等確認業務一式	1	随意契約(少額)	-	100%	-
2	イノベーションミライ株式会社	4100001024216	第10版食品添加物公定書案(案)の誤植等確認業務一式	1	随意契約(少額)	-	100%	-
D								
	支 出 先	法 人 番 号	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社池田理化	3010001010696	イオンクロマトグラフシステム 一式 ほか2件	18.6	一般競争契約(最低価格)	2	95.9%	
2	WDB株式会社	4010001143256	試験研究業務等のための人材派遣業務	14.6	一般競争契約(最低価格)	6	89.1%	
3	株式会社バイオテック・ラボ	5010601020795	DNAマイクロアレイスキャナー 一式 ほか1件	12.7	一般競争契約(最低価格)	3	99.9%	
4	株式会社DIMS医科学研究所	8180001082987	指定添加物p-サイメンのラット～病理組織学的検査および脳の画像解析 一式	9.7	一般競争契約(最低価格)	1	0.9%	
5	株式会社ボゾリサーチセンター	7011001043906	既存添加物キナ抽出物のラット～生殖発生毒性併合試験～病理組織学的検査 一式	4.4	一般競争契約(最低価格)	1	93.1%	
6	一般財団法人東京顕微鏡院	3010005004232	加工食品中のリン酸化化合物(オルトリン酸及び縮合リン酸)の含有量調査 一式	4.3	一般競争契約(最低価格)	1	91.3%	
7	パーソルテンプスタッフ株式会社	1011001015010	試験研究業務等のための人材派遣業務	4.2	一般競争契約(最低価格)	1	91.6%	
8	株式会社東機システムサービス	3010401019131	パソコン 11台 ほか2件	3.3	一般競争契約(最低価格)	4	81.9%	
9	株式会社帝国理化	3010001050750	共焦点レーザーシステムアドオン 一式	3	一般競争契約(最低価格)	3	94.5%	
10	日本メガケア株式会社	2011401003365	細胞保存用液化窒素1, 410 KG ほか8件	1.9	一般競争契約(最低価格)	3	98.3%	

